

河川愛護モニター活動紹介

今年の冬は例年より暖かい日々が続きましたが、梯川は冬の美しい風景で私たちに季節を感じさせてくれました。モニターのお二人が10月、11月の梯川の様子を報告してくれましたので、ご紹介いたします。

里川にこみをすてないで

10月・11月の活動報告

冬が近づくに川沿いを歩いていると、汗ばむほどですが、上手には春に白や薄桃色の花をつけるハマダイコンが元気に芽を出し、冬越しの準備をしています。毎日眺める風景だというのに、一日たりとも同じではなく、飽きることはありません。目立つ黄色い花はセイタカアワダチソウやブタンなどの帰化植物ですが、もともと日本にある植物も大切にしたいものです。



平成18年度
梯川河川愛護モニター
井上さつきさん

河川の堤防は定期的に草を刈り、増水したときに流れて危険な灌木などは適宜伐採している、ということをおうかがいました。一方、悲しいのは散らかされたゴミ。「どうかもって帰ってほしい」、その影響で生物が死んでいるかもしれません。「里川」という言葉があるそうですが、身近で人と関わり、使われ、守られている川の意味だそうです。「里川」の保全は以前にも増して大切だと思います。

美しく変貌する梯川に魅了されました

10月・11月の活動報告

梯川の彼岸花が満開となる10月上旬になるとその美しさに魅せられて風景写真や、中には花びらの近接写真を撮っている人も見られました。またその美しい癒しの場合は、保育園児の散歩のコースとなり、四季を通し美しく変貌する様は人々を魅了します。



平成18年度
梯川河川愛護モニター
西野 広一さん

10月中旬では川縁に生えているススキの穂が白くなって風に舞うようになり、また、帰化植物のセイタカアワダチソウは堤防のあちこちで黄色い花を咲かせ、群落をつくるほどになりました。

梯川の堤防道路の多くは舗装された上、通行する車もほとんどなく、広々とした景色をのびのびと満喫でき、花や虫の観察もできて、子供には良い環境だと思いました。また、白江町地内の梯川左岸で行われていた埋蔵文化財調査では、何か新しい埋蔵物でも発掘されなかったかどうかと興味をそぞられました。

親子で一緒に！ 手づくり学習館で 野鳥観察会を開催

2月25日(日)、梯川手づくり学習館では沿川の小学校に通う高学年の小学生を対象に野鳥観察会が行われました!!講師には日本野鳥の会の会員である矢田先生をお招きし、親子そろって、野鳥について勉強していきました。皆様もぜひ学習館に足を運んで実際に鳥を観察してみてください。



矢田先生
ありがとうございました

色々な種類の鳥が見えるね!

野鳥観察会で見る事ができた鳥



アオサギ

カワウ

カルガモ



梯川
手づくり学習館

前川

お問い合わせ先

国土交通省金沢河川国道事務所調査第一課 TEL076-264-8800

小松出張所 TEL0761-23-4000

ホームページ <http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/>

広報「かけはしがわ」は、ホームページでもご覧いただけます。



国土交通省 北陸地方整備局

金沢河川国道事務所

本誌は古紙100%の再生紙を使用しています



R100

環境にやさしい植物性大豆油インキを使用しています



かけはしがわ



発行:国土交通省金沢河川国道事務所



小松地区改修が本格化します!

◆手づくり学習館で野鳥観察会を開催

◆河川愛護モニター活動紹介



小松天満宮での現場視察

第一回 小松天満宮整備計画評価委員会を開催

3月6日に第一回小松天満宮整備計画評価委員会が開催されました。梯川の河川改修の実施に際しては、「安全・安心な治水事業による川づくり」と併せて、「多自然川づくり」等自然環境にも配慮した河川整備を実施しています。小松地区改修においても、小松天満宮周辺の「鎮守の森」に代表される自然環境の保全と併せて「重要文化財」としての文化的重要性とその利用に配慮した整備を進めるため、当委員会で学識経験者の方々により助言を頂きながら事業を進めていきます。



小松天満宮評価委員会の様子

小松天満宮整備計画評価委員会メンバー

- 気象学 町村 尚氏
大阪大学大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻助教授
- 植物 松枝 章氏
愛樹技術士研究所長、樹木医
- 地下水 関戸 信次氏
小松市文化財調査委員、小松市立博物館専門委員
- 建築学、文化財 中森 勉氏
金沢工業大学 環境・建築学部建築系助教授
- 河川工学 鈴木 洋之氏
石川工業高等学校環境都市工学科講師

特集 小松地区改修事業が今春から本格化します

全国的にも珍しい分水路方式による河川改修!

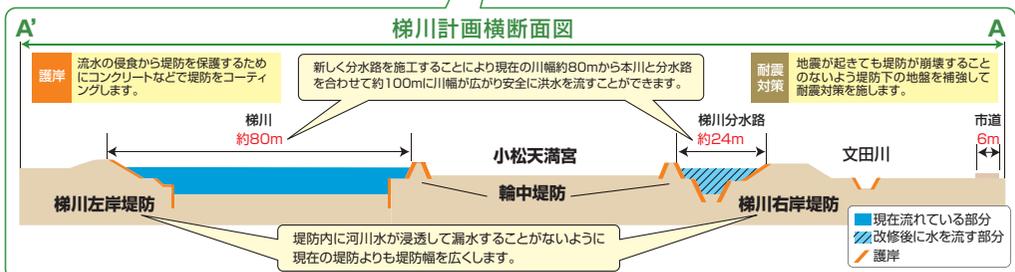
梯川では近年、度重なる大きな洪水に対して、水位を低下させ、安全に流すため川幅を現在の幅から約1.5倍に広げる工事を下流から行っています。現在は河口から約2.5kmまでの堤防工事が完成しており、今後は小松天満宮周辺の上流約600mの区間の整備を約10年間かけて進めています。

この区間は国指定重要文化財に指定されている小松天満宮を現在の位置に保全した分水路方式による事業で、全国的にも珍しい工事を行います。



川づくり・道づくり・まちづくりが一体となって事業を展開!

分水路方式による河川改修と併せ、石川県が実施している小松大橋の架け替えと、小松市が実施する分水路周辺地域のまちづくりについて国土交通省・石川県南加賀土木総合事務所・小松市が連携して事業を進めています。



技術的検証により練り上げられた分水路計画

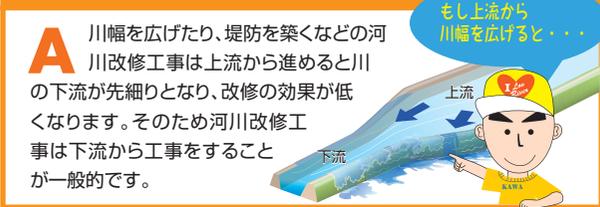


分水路方式の決定に際しては大規模な模型実験による技術的な検証による安全性の検証が行われました。

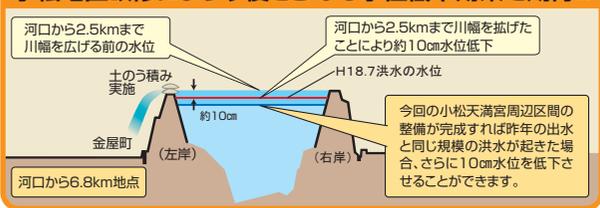


河川工学の専門家による技術検討委員会により、分水路方式による河川改修計画について技術的な審議がなされました。

なぜ、洪水時に堤防から水があふれそうな危険な区間が他にあるのに下流から川幅を広げるの？



小松地区改修により今後さらなる水位低下効果を期待!!



右岸地区工事の第一歩は西川・文田川の付け替えからスタートします!

右岸地区の整備の最初の工事は西川・文田川を部分的に付け替える工事から始まります。この部分的な付け替えにより、新しい小松大橋の橋台の工事や新しい天神水管橋の橋台の工事ができるようになります。また、左岸地区も右岸地区とともに今まで通り工事を進めています。

平成19年 春～秋にかけての工事

国土交通省では西川・文田川の付け替えや天神水管橋の架け替えに一部着手し、石川県では小松大橋の架け替えとそれに伴う取付道路の工事に一部着手します。上記の工事に伴い、市道に仮橋を架け、県道の迂回路・工事用道路を施工します。一時的に通行が不便になりますが、事業へのご理解とご協力をお願いします。



平成19年 秋～20年春までの工事

国土交通省では天神水管橋の架替と併せて橋台周辺の堤防を整備します。石川県では小松大橋の架替が行なわれます。



Table with 2 columns: '凡例' (Legend) and '工事施工箇所' (Construction sites). It lists symbols for construction sites, temporary roads, and levee improvement areas.